

# 岐阜市における不登校児童生徒支援体制

## 学 校

☆すべての児童生徒が自己有用感を感じられる集団づくり  
☆「わかる・できる授業」、安心して学べる学習規律づくり

### ■教育相談委員会(教育相談体制の確立)

- ・教育相談週間、心のアンケート、いじめアンケート、STAR(学校の課題解決に資するアセスメントシステム)等の実施
- ・学校いじめ防止対策推進会議、不登校対策委員会、ケース会議の実施
- ・スクールカウンセラー、スクール相談員、ほほえみ相談員、外部機関等との連携
- ・校内研修の企画・運営
- ・不登校の状況等についてのアセスメント

### ■学年会(学年主任・教職員)

- ・個別支援プログラムの作成
- ・児童生徒、学級担任の支援

### ■スクールカウンセラー

(全中学校区に配置)

- ・児童生徒へのカウンセリング、アセスメント
- ・保護者へのカウンセリング
- ・教職員へのコンサルテーション、助言
- ・学校いじめ防止等対策推進会議、不登校対策委員会等での見立て
- ・各種研修会や講演会での指導
- ・校区の総合的な不登校対策の推進

※R3年度より、主に小学校へ派遣する岐阜市SCを6名配置

### ■スクール相談員

(重点校区中心/中学校18校区に配置)

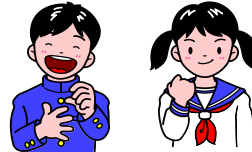
- ・児童生徒、保護者との相談
- ・相談室での学習支援等

### ■学級担任

- ・自己存在感や自己有用感を味わえる学級づくり
- ・生活ノート等を通した日々の個別カウンセリング

### ■ほほえみ相談員

- ・中学校を本務校として23名配置。それぞれの校区の小学校も担当。
- ・定期的・継続的な家庭訪問による支援、ふれあい活動等を通して、人間関係づくりや情緒の安定、将来の自立を目指した支援を行う。



## 児童生徒の社会的自立

- ・児童生徒による絆づくり、教職員による居場所づくりを通して、すべての児童生徒の「生きる力」を育む。
- ・個別支援プログラムによる一人ひとりへの丁寧な支援を、継続的にチーム態勢で実施する。

## 岐阜市子ども・若者 総合支援センター“エールぎふ”

- 子ども・若者に関するあらゆる悩み・不安の相談に対応
- ワンストップで総合的に相談・支援
- 発達段階に応じて継続的に支援

- ・カウンセリング
- ・電話相談 ・来所相談
- ・訪問相談 ・医療相談
- ・不登校児童生徒の保護者の会



### ■子ども・若者自立支援教室

主として不登校児童生徒を対象に、学習活動や小集団での体験活動等を通して、登校状況の改善を図ったり、自己肯定感や社会性を培ったりする。

### ■スクールソーシャルワーカー

(“エールぎふ”に3名配置)

家庭や行政、福祉関係施設等、外部機関と連携しながら、子どもを取り巻く環境や、相談・支援を調整する。



## 不登校特例校 岐阜市立草潤中学校 (R3年4月開校)

不登校を経験した生徒のありのままを受け入れ、個に応じたケアや学習環境の中で心身の安定を取り戻しつつ、新たな自分の可能性を見出す

### ■草潤中学校 定員40名程度

一般の中学校は、全学年それぞれ年間 1,015 時間の授業を行うが、草潤中学校は、年間 770 時間の授業を行う。家庭での学習を基本にして学習を進めるスタイル、家庭で学習して週に数日登校スタイル、毎日登校するスタイル等、生徒に合ったリズムを相談して決める。

### ■通級支援25名程度、Online 支援25名程度

転入学する生徒に加え、在籍校に籍を置いたまま個別に支援をする「通級支援」(週1回50分)、「Online支援」(週1~2回20分程度)も草潤中学校で対応する。